

西郷村行政評価

令和2年度 (令和元年度実施事業分) 外部評価報告書

令和2年10月

西郷村行政評価推進委員会

目次

1. はじめに.....	1
2. 西郷村行政評価推進委員名簿（外部評価）	2
3. 外部評価の概要（令和元年度基本施策及び事務事業の外部評価）	3
(1) 西郷村行政評価推進委員会（外部評価）の開催経過	3
(2) 外部評価の視点	3
(3) 評価対象の選定	4
4. 外部評価結果	5
(1) 施策の個別評価結果	5
(2) 全体的な意見について	12
5. 今後の行政評価のあり方（課題等）について	14
(1) 選定方法及び審議の流れについて	14
(2) ヒアリング時の担当課の対応について	14
(3) 外部評価実施に対する全体的な意見・感想について	15

参考資料

○令和2年度実施 令和元年度基本施策評価シート（西郷村資料）	17
--------------------------------------	----

1. はじめに

西郷村では、平成29年度からの10年間を計画期間とした「第四次総合振興計画」を定め、『人と自然が輝き笑顔を未来へつなぐ「さわやか高原公園都市」にしごう』を将来像とする政策・施策体系が構築されました。

第四次総合振興計画の進行管理においては、個別の事務事業を中心とした事務事業評価から、「施策が効率的・効果的なのか」、「事務事業が適切なのか」を評価する施策評価を導入し、行政評価制度が構築されたところであります。

第四次総合振興計画初年度である平成29年度は施策の内部評価を試行的に行い、平成30年度から第三者の視点からの評価及び意見を聴取することにより、施策評価の客観性と透明性を高めることを目的に外部評価が導入されました。

外部評価の方法は各自治体で様々であり、村と連携し試行錯誤を重ねながら検討を進めるものとなりました。各委員の専門性や経験、見識等を踏まえながら、積極的な議論を重ね、更には施策を評価するにあたっては、担当課からの説明や質疑応答を実施し、効果性や必要性、公平性等を中心に評価及び検証を進めてきました。

なお、外部評価の実施にあたっては昨年度まで専門の評価機関が設置されておらず、西郷村行政改革推進委員会がその役割を担い外部評価を実施しておりました。令和2年度に「村の実施する行政評価について調査審議し、村長に改善案等の助言を行う」専門の機関として、西郷村行政評価推進委員会が新たに設置されたため、本委員会で評価を行いました。

本報告書は、令和元年度（平成31年度）の施策評価について西郷村行政評価推進委員会が、行政評価の目的である「事務事業の改善」、「行政の説明責任の向上」、「職員の意識改革」を達成するための議論の結果をまとめたものであります。

評価の過程で、資料提出やヒアリングに対応していただいた職員の方々に対し、委員一同感謝申し上げますとともに、村民の幸福と村の発展のためこの内容を真摯に受け止め、施策展開や事務事業等の見直しに活用する中で、常に村民の立場に立ち村政運営に尽力することを期待するものであります。

令和2年10月 委員一同

2. 西郷村行政評価推進委員名簿（外部評価）

任期 自：令和 2年 7月 2日

至：令和 5年 7月 1日

	委員氏名	備考
1	藤原 一哉	会長
2	花安 紀夫	職務代理者
3	居川 孝男	
4	金田 裕二	
5	村田 清	
6	遠藤 玉美	
7	菊地 幹雄	
8	大越 則恵	
9	西坂 雄治	
10	尾崎 梨恵	

3. 外部評価の概要（令和元年度基本施策及び事務事業の外部評価）

（1）西郷村行政評価推進委員会（外部評価）の開催経過

会議	開催日	内容
第1回	令和2年7月2日（木）	・行政評価基本方針について ・外部評価対象事業の選定について
第2回	令和2年8月3日（月）	・外部評価の進め方について ・外部評価の実施（ヒアリング形式）
第3回	令和2年8月31日（月）	・外部評価結果について ・外部評価報告書（案）について
第4回	令和2年10月1日（木）	・外部評価報告書について

（2）外部評価の視点

外部評価は、施策目標の達成度、課題認識、総合評価を視点として、以下の項目について外部評価結果としてまとめています。

① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘

各施策における指標、目標値の妥当性の検証、および内部評価に対する指摘事項を記載しています。

② 進捗状況

内部評価の妥当性を検証することを基本とし、それを踏まえて施策の進捗状況を次の4段階の区分で評価しました。

評価区分
A：計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B：ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C：目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D：目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。

なお、本報告書「進捗状況の理由等」の欄では、各評価区分にそれぞれ「+」、「-」を付して、より細分化した標記をしています。

「+」付記…評価件数が最も多い区分を基準とし、基準より上位の評価も含まれる

「-」付記…評価件数が最も多い区分を基準とし、基準より下位の評価も含まれる

③ 外部評価からの提言等

施策とそれを構成する事業の関連性について、進捗管理の視点からは一歩踏み込んだ形で「必要なのか」、「有効なのか」などの視点から、施策展開や事務事業等の見直し、次年度以降の計画、予算への反映を通じて村の行政運営の改善に役立てていただくため、提言等を取りまとめました。

(3) 評価対象の選定

評価対象の選定については、本委員会で全ての評価を行うことが困難であること、各種指標や内部・外部評価の進め方についても検討の必要があることなどから、基本方針に基づいて、第四次総合振興計画に掲げる8つの基本目標からそれぞれ1基本施策を外部評価委員会において抽出し、8施策を対象に実施することとしておりました。しかし、基本目標8については、既に昨年度の外部評価において全ての基本施策に対する評価を終えていることから、基本目標2の基本施策を2つ選定し、下表の8施策を評価の対象といたしました。

なお、基本施策7-3 原子力災害対策の推進においては、災害復旧費に該当することから評価は行わず、事業内容・進捗等について確認し、それに対する意見を記載いたしました。

基本目標	分野	コード	選定施策名	担当課名
1. 希望に満ち、子どもたちが健やかに育つむらづくり	子ども・子育て・少子化対策	1-1	母子保健の充実	福祉課 健康推進課
2. 自らを高め、共によりよく生きるむらづくり	教育・文化・スポーツ	2-2	家庭・地域の教育力向上	学校教育課 生涯学習課
		2-4	生涯学習の推進	生涯学習課
3. 活力ある、交流とふれあいのむらづくり	産業・観光・交流	3-2	商工業の振興	産業振興課
4. 快適に暮らし、利便性の高いむらづくり	都市基盤	4-2	上下水道の整備	上下水道課
5. 自分らしく生き、笑顔があふれるむらづくり	保健・医療・福祉	5-2	医療の充実	健康推進課 住民生活課
6. 自然と共生し、環境にやさしいむらづくり	環境保全	6-3	エネルギー対策の推進	環境保全課 防災課
7. 安全が守られ、災害に強いむらづくり	防災・防犯	7-3	原子力災害対策の推進	環境保全課 産業振興課 健康推進課
8. 共に考え、協働するむらづくり	行財政運営	---	---	---

選定した基本施策の評価にあたっては、村が事前に作成した施策評価シート（※参考資料として巻末に添付）のほか、個別事務事業評価シートを参考に、担当課へヒアリングを実施し詳細を確認しながら進めました。

4. 外部評価結果

(1) 施策の個別評価結果

基本目標	1	希望に満ち、子どもたちが健やかに育つむらづくり
基本施策	1-1	母子保健の充実
主担当課名	福祉課	
関連課名	健康推進課	
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成度にばらつきがあるため、低い数値の項目に関する施策については、再評価や指標を見直し達成度を高める必要がある。 ・関係各課で連携し、それぞれの事業計画を考慮して目標値を策定されたい。 		
② 進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等		<p>●施策の進捗としては概ね「B+」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回るものが多いが、未達成のものもある。 ・乳幼児家庭全戸訪問事業は実績を達成している。なお、乳幼児健診受診率については100%を達成するよう努めること。 ・子育て支援は重要な施策であり、継続は必要である。安心して子どもを産み育てる社会を築くという目的意識を高めて、業務を推進してほしい。
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・予算が年々増加傾向にあるため、村にとって本当に必要な事業であるか検討し、成果指標を適切な項目、値に見直すこと。 ・一つの部門を個別に評価するのではなく、ソーシャルインクルージョン※などの新しいニーズに常に目を向けて、事業を総合的・横断的に評価されたい。 ・母子保健の充実、子育て支援は少子化や人口減少に対する最重要課題であることから、この分野が村の特徴となるよう意識を高め業務推進を図られたい。 ・市町村に子ども家庭総合支援拠点の整備や幼児教育・保育の無償化など、福祉、保健、医療、教育部門で連携を図り取り組まれたい。 ・各部門の連携にあたっては、保健師等専門的職員を採用するなど人的体制の整備についても検討されたい。 		

※ソーシャルインクルージョン…全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合うという理念。

基本目標	2	自らを高め、共によりよく生きるむらづくり
基本施策	2-2	家庭・地域の教育力向上
主担当課名	学校教育課	
関連課名	生涯学習課	
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS などの問題点を学習する機会を設け、幅広く情報社会を考えることの大切さを示す指標とすべきで、新聞を読むことを家庭や学校で重視する指標の設定も検討されたい。 ・ 統廃合される事業等についてはシート記載方法に十分留意し、次年度以降の目標値についても改定が必要である。 ・ 世代間の交流や近隣相互の支え合いが、どのように図られているか、また家庭・地域の教育力が向上しているのかを示すわかりやすい指標を設定されたい。 		
② 進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等		<p>●施策の進捗としては概ね「B-」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域が学校を支える事業に着実に取り組まれているが、全ての指標において、ほぼ横ばい、またはそれ以下である。 ・ 指標項目が少なく、見直しがされていない中で評価が適切かの判断が困難である。
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 少年の主張大会の動画配信について検討されたい。 ・ 地域学校共同活動事業について、村内の小中学生がだれでも使える事業とするなど、将来を担う若者世代を対象とした事業の充実について検討されたい。 ・ 子ども避難の家登録件数、子どもの安全見守り隊員数の確保において、更なる周知が必要である。 ・ 世界的な子どもの権利宣言と、村の2つの宣言を合わせた学習の取組について指標化を検討されたい。 ・ 異文化体験、プリティッシュヒルズ語学研修の回数を増やすことはできないか。 ・ 学校運営協議会※の設置により、地域全体で協力し支えていくことが大切であり、「地域とともにある学校づくり～コミュニティ・スクールの導入の推進～」をさらに実践化して頑張ってもらいたい。 ・ SNS によってもたらされる負の側面、ネットいじめ、犯罪などの防止について小さい時から学習をする必要がある。児童へのタブレット端末配置を契機として、理解を深める施策等有効活用について検討されたい。 		

※学校運営協議会（コミュニティスクール）…学校と地域住民等が協力し学校の運営に取り組む「地域と共にある学校」への転換を図るための仕組み。学校運営に地域の声を積極的に活かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めて行くことが可能。

基本目標	2	自らを高め、共によりよく生きるむらづくり
基本施策	2-4	生涯学習の推進
主担当課名	生涯学習課	
関連課名		
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館事業の充実は自主グループの活性化に表れるため、自主活動に関する目標を設定すべきである。 ・図書室の貸し出し冊数も良いが、利用者数にも注目されたい。 		
② 進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	<p>●施策の進捗としては概ね「B+」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野で目標値を上回っており、興味のある事業・講座が展開されているが、一部実績が減少しているものもあるため、目標の設定が現状に合っているか確認を要する。 	
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館事業が低調となっているため、この事業の魅力を村民に十分に周知されたい。 ・2020年度以降、新型コロナウイルスに対し、十分な感染症対策を実施しないと、参加人数が目標に達しないと考えられる。少年少女合唱クラブ事業など、素晴らしい取組ではあるが、学校教育とともにコロナ対策についても予算計上をされたい。 ・むらづくり指標の図書室貸し出し冊数は、制度上、人気作家の本や文庫本の新刊を図書室でそろえることが出来ないためではないか。また、学校の図書室の充実と司書などの専門職の配置が重要であるため、人員の確保についても検討されたい。 ・人材育成事業助成金については、「人と地域の絆づくり」推進補助金との関連がある項目については、各課の連携を深める意味においても、統廃合を検討されたい。 ・終身雇用が崩れている今、雇用形態の変化に対応した現役世代のリカレント学習[※]、リモート学習への対応、選挙権の低年齢化に応じた生涯学習などを検討していく必要がある。特定の世代を対象とせず、世代間交流を意識した支え合いの地域づくりを目指してほしい。 		

※リカレント学習…社会人になってからも、学校などの教育機関で学習し、また社会へ出ていくといった、回帰教育、循環教育を指す。

基本目標	3	活力ある、交流とふれあいのむらづくり
基本施策	3-2	商工業の振興
主担当課名	産業振興課	
関連課名		
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果、改善の必要があると判断する。次の点に留意し次年度以降対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値が5年間同一であることについて工夫が必要である。 ・実績値が0（ゼロ）または、全て同一である事は、達成度の判定を困難にしていることから、他に実績が分かるデータが必要である。 ・目標値の設定とそれに向けた施策展開が一致していないことから、見直しをされたい。 ・これといった成果が見られないのにも関わらず、現状維持という内部評価の方向性は矛盾している。職員一人一人の創意工夫による業務改善を進め、現状維持の姿勢を転換し課題に向けてチャレンジする姿が見たい。 		
② 進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B		ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C	○	目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等		<p>●施策の進捗としては「C+」と判断する。早急に見直しが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工業は、関係者の努力で厳しい現実の中で奮闘されているが、実績が0（ゼロ）のままや、初期値からほぼ横ばいのものがあり、達成度が低い状況である。
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・施策評価シート「全体総括」での現状分析から、行政サービスの方向性が生まれているのか明らかにしていただきたい。 ・創業者育成事業を行うべきであるが、商工会に丸投げするのではなく、積極的に村もかわりを持つ事が必要である。 ・課題認識は一般論として適切であるが、村としての産業振興の具体策や方向性が見えない。特産品の開発やPRを強化し、地理的条件を活かした商工業振興の積極的な施策展開を望む。 ・「しらかわ地域ものづくり高度化、海外展開事業」について、もっと強化する手段を考えるべきである。 ・創業支援塾の開催、創業希望者への事業所提供等について検討されたい。 ・温泉健康センター（ちゃぼランド）の今後の運営体制について早急に検討されたい。観光地である事を「肝」に銘じて頑張っていたいただきたい。 ・地元企業基盤強化のための政策が必要である。 		

基本目標	4	快適に暮らし、利便性の高いむらづくり
基本施策	4-2	上下水道の整備
主担当課名	上下水道課	
関連課名		
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下水道含め、耐用年数を上回っている設備の老朽対策や水道技術の継承など、長期視点に立った指標が必要である。 ・源流の郷にちなんだ国内名水100選に選ばれるような基準をつくってみてはどうか。 ・上下水道の老朽化による破損等について把握できるよう、維持管理費の動向や、漏水割合を指標化することについて検討されたい。または、評価シートに実績を記載すること。 		
② 進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	<p>●施策の進捗としては概ね「B+」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道の安定供給が推進され、年々実績が上がり目標に近づいている。 	
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・公営企業法適用により公会計がさらに充実され、長期見通しが立てやすくなっているとすれば、これを未接続者に対する説得材料にすることを検討されたい。 ・生活の質と地域の衛生水準の向上を地道に訴え、未接続件数の減少を図られたい。 ・上下水道事業はライフラインの基本である。健全な財政を維持することが大切であり、常に分析を心がけていただきたい。 ・カラーマンホールの設置、マンホールカードの発行や、西郷村の素晴らしい水を観光資源としてさらに PR をすることで、観光行政に結び付けることはできないか検討されたい。 ・災害に強いインフラ整備に努め、水資源を守りさらに安価でおいしい、安全な水の供給に努められたい。 ・ストックマネジメント※ 計画による、資本整備・長期計画な企業債の返済を図られたい。 		

※ストックマネジメント…長期的な視点で老朽化の進展状況を考慮し、優先順位付けを行ったうえで、施設点検、調査、修繕を実施し管理の最適化を図るもの。

基本目標	5	自分らしく生き、笑顔があふれるむらづくり
基本施策	5-2	医療の充実
主担当課名	健康推進課	
関連課名	住民生活課	
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>●むらづくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療費と受診率は、目標を上回っている。医療費削減を目標とするならば、達成度の計算方法を工夫してはどうか。 ・個別事業の中で負担金・補助金を指標としているものについては、指標の見直しをされたい。 ・高齢化の進行に備え、在宅医療・訪問看護についても指標とするよう検討されたい。 ・健診を受診された方で要精密検査者であった場合、その後の動向を図る指標について検討されたい。 		
② 進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	<p>●施策の進捗としては概ね「B+」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成度から見て計画以上の進捗とは言い難いが、継続していかなければならない施策である。 	
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・拠点づくり整備事業「医療体制の充実を図る」目的の一環として、小児科医院の建設は大変結構である。村の医療体制の充実を図るために、さらなる計画の立案について検討されたい。 ・住民に密着した在宅医療の充実と、救急医療や不妊治療、難病対応等、様々な医療の確保に努められたい。 ・国保会計健全化のため、関係課が連携し高齢者の健康増進を図られたい。 ・地域包括ケアシステム[※]を推進することで、生活をより豊かなものとする事業を推進されたい。 ・医師会等との連携を密にし、二次医療機関が疲弊しないような医療体制が整備されることを望む。 ・医療機関の経営上の不安にも対応されたい。 		

※地域包括ケアシステム…高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」が切れ目なく一体的に提供される体制。

基本目標	6	自然と共生し、環境にやさしいむらづくり
基本施策	6-3	エネルギー対策の推進
主担当課名	環境保全課	
関連課名	防災課	
① 施策の指標・目標値の妥当性、内部評価への指摘		
<p>○村づくり指標及び目標値については、ヒアリングの結果概ね妥当であると判断する。 しかしながら、次の点に留意し次年度対応すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標の設定が現状に合っていないことから、課題の分析と積極的な目標達成のための事業計画策定、実施に努められたい。 ・太陽光発電システムの設置だけでなく、様々な省エネ対策の具体的な指標の設定についても検討されたい。 		
② 進捗状況		
A		計画以上に進捗しており、このまま継続して事務事業を推進する。
B	○	ほぼ計画どおり進捗しており、継続して事務事業を推進する。
C		目標を下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
D		目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。
理由等	<p>●施策の進捗としては概ね「B-」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画以上の事業展開はされていない。基本目標の趣旨は理解できることから継続は必要である。 	
③ 外部評価からの提言等		
<ul style="list-style-type: none"> ・大規模太陽光発電施設については、県とも連携し村民に十分な情報提供が必要である。 ・環境を守るためには、関係各課との連携が必要である。共同目標を設定することについて検討されたい。 ・基本目標と村の現状に相違が無いか、分析すべきである。 ・森林再生事業を根本的に検討すべきである。 ・防犯等のLED化を目標にしているが、防犯カメラとの併用設置ができないか検討されたい。 ・CO2排出の無い太陽光熱エネルギーを利用した事業（温水器等の普及等）について検討をされたい。 ・自然の乱開発により、将来世代に負の遺産とならぬよう、監視していく必要がある。 		

基本目標	7	安全が守られ、災害に強いむらづくり
基本施策	7-3	原子力災害対策の推進
主担当課名	環境保全課	
関連課名	産業振興課・健康推進課	
ご意見等		
<ul style="list-style-type: none"> ・一日も早く除染土砂等の搬出完了を望むと共に、従前の様な、山の幸、川の幸の恵みを頂ける事を楽しみにされている多くの村民の期待に沿うよう尽力されたい。 ・当村の阿武隈川源流は、首都圏から近くにあり、豊かな自然の中で溪流釣りが楽しめる貴重な場所である。震災以降、漁協の関係もあり放射能の影響で禁漁となっているが、現実には西郷村の溪流魚はセシウムも低く再開できる条件にある。住民にとっても、源流域の自然に親しむことのできる豊かな村として誇りが持てることから、阿武隈川の源流における溪流釣りの再開を村として取り組む意義は極めて大きい。コロナ禍の影響もあり、現在十分な活動は難しいが、行政施策として阿武隈川上流域の自然環境保護に努められたい。 		

※基本施策7-3 災害復旧費のため評価の対象外。

(2) 全体的な意見について

施策評価の目的は、行政評価を通じて「総合振興計画の施策体系の中で果たすべき役割を認識しながら、各事業の目的、成果、課題、コストを意識し、村民目線に立って、事業の直直し、事務の改善に取り組み、効果的かつ効率的な行政運営に取り組むこと」である。

今回、外部評価を実施した結果、下記のとおり課題等が挙げられているので、改善を図られたい。

○職員の評価に取り組む姿勢について（内部評価含む）

昨年同様、事務事業の指標が達成されていないにもかかわらず A 評価、B 評価とされているものや、成果が表れていないのにも関わらず、内部評価の方向性が「現状維持」となっているものが見受けられる。

各担当部局において内部評価が単なる作業とならないよう、内部評価方法を工夫することや、内部評価に対する理解や説明責任を果たそうとする意識の向上に努めていただきたい。委員会評価の結果を真摯に受け止め職員一人一人の創意工夫により業務改善を進め、現状維持の姿勢を転換し、課題に向かってチャレンジしている姿を見たい。

また、各課を横断し連携した取組等の意見も提案されることから、ヒアリング時には担当の課のみの出席ではなく、全課を出席させるなど情報を共有していくことが大切である。

○施策評価シート及び個別評価シート等について

施策評価シート及び個別評価シートの記載に当たっては、「施策を評価する」、「総合振興計画の進行管理を行う」という目的に沿って記載するとともに、第三者の目線に立ち具体的にわかりやすい記述、並びに様式の作成に心がけていただきたい。

委員会は、評価シートを参照して内容を把握し、実績値のみで判断が困難なものについて詳細や不明点をヒアリングにより確認したが、それぞれの評価シートに実施内容や成果等も併せて記載されることで、効率良くヒアリングを実施することが出来ることから、次年度以降、様式の変更や記載内容に留意し評価シートを作成されたい。

また、村民は公表されるもののみを閲覧することになるため、評価の妥当性の判断が出来ないといった昨年度の評価結果を踏まえ、本報告書巻末に評価対象施策の基本施策評価シートを添付した。

○むらづくり指標、個別施策の指標・目標について

設定された各指標の妥当性及び達成度を検証するという作業は、この行政評価の根幹を成すものである。村の現状と課題を施策や事業を展開することでどの様な状態にしたいのか達成度合が村民に伝わるよう指標を設定する必要がある。達成度にばらつきがあるものについてはその要因分析を行い、目標達成のための実施計画策定、事業実施に努められたい。

また、指標設定が施策の展開や事業の目的と一致していないものもことから、事業の目的を良く理解し適切な指標に見直すべきである。

○外部評価の反映について

個別事業の細かい部分までは、外部評価の内容を反映することは難しいと思うが、施策展開や事務事業等について見直しを行うことや、次年度以降の計画や予算に反映させるなど村行政運営の改善に努められたい。

なお、今回の外部評価がより効果的なものとなるよう、評価の結果を踏まえた見直し内容や、次年度以降の予算反映の方向性について確認する事が、より実効性の確保につながることを考えられるため、当初予算編成後に開催する行政評価推進委員会において、外部評価結果に対する村の回答及び説明を要望する。

内部評価の結果、現状維持とされた個別の事務事業の中には、その財源を国や県の補助や交付金等により補って実施しているものもあるが、将来、国や県の補助等の財源が得られなくなった時のことを想定して、それぞれの事務事業が村にとって本当に必要であるものかどうかを見極めた上で方向性を決定されたい。また、補助等の財源が得られなくなった後の事業継続にあっては、不足分を容易に村が全額負担するのではなく、受益者に負担を求めることなどについても検討されたい。

そのほか、担当課が異なる個々の事務事業であっても、関連する内容も見受けられることから、施策の効果を高め目標を達成するためにも、所属を越え横軸の連携を図りながら取組を推進していただきたい。

5. 今後の行政評価のあり方（課題等）について

（1） 外部評価対象事業の選定方法及び外部評価の流れについて

平成 29 年（2017 年）から 10 年間にわたる村の総合振興計画に掲げられた 28 の基本施策から毎年 8 個の基本施策を選定し外部評価を行うという作業も 3 年目となりました。28 の基本施策は 8 つの基本目標の中核を成して、今回は、本報告書の 5 ページの表にあるように分野 2（教育・文化・スポーツ）から 2 つの基本施策を対象にし、分野 8（行財政運営）は、外部評価の対象には選定しませんでした。ただ、この外部評価自体が行財政運営そのものにかかわる取り組みであるため、毎年コツコツと地道な作業を繰り返すことが重要かと思われます。

今年度の外部評価の審議では、昨年度の外部評価の指摘に対して村としてどのような対応を取ったのかが示されました。この外部評価の資料は、村当局の内部評価そのものであり、村の内部評価（基本施策の中の各事業に関する評価シート）は、PDCA、すなわち、計画・実施・評価・改善が数字とともに示され、改善の中に今後の方針が事業ごとに示されています。この内部の検討状況も含めての外部評価になっているということは、この外部評価は村当局内部での PDCA サイクルのさらなる向上に資するものになることが求められます。

外部評価は、委員それぞれの各分野の知見から評価を行っておりますので、この報告書は行政運営において、少なからず貢献できるものであると思います。この報告書が広く周知され、村当局並びに住民や住民の代表者である村議会などでも議論の材料として利用して頂くことを希望します。

（2） ヒアリング時の担当課の対応について

この外部評価は村当局の内部評価を資料としていますが、この資料の書面だけ見ても理解できないところや別角度から質問してみたいという評価委員の熱い希望が出され、毎年担当課に対してヒアリングを行っています。今回は、新型コロナウイルス感染対策で密を避けるために、会場を広くし、議場を使わせていただきました。換気の徹底という観点から、テーマごとに休憩を入れ、午前と午後の時間を取りました。

担当課とともに関係する課の方にも同席していただき、全課出席という評価委員の希望に応えるため、庁内の議場放送設備を利用し、各職員のパソコンからヒアリングの様子が視聴できる環境を整えていただきました。

ヒアリングにあたっては時間が限られていることから、事前に評価委員からの質問を取り纏め、ヒアリング日までに間に合うよう、事前質問に対する担当課の回答を送付していただいて、当日はこの回答に関してさらにヒアリングしたい点のみ行いました。限られた時間内に各評価委員の疑問点が一定程度は解消されたと思われます。ただ、ヒアリング項目にかかわる村の基本的な政策に関する質問は、担当課だけでは回答は困難ということであったため、今後は庁内での連携強化を図っていただきたいと思っています。

(3) 外部評価実施に対する全体的な意見・感想について

外部評価は内部評価の結果に対して行われるため、村当局の日々の業務とそれに対するPDCAサイクルの取り組みを前提にしていますが、各施策の評価とともに評価委員の提言も報告書に記載しています。昨年度実施した外部評価に基づく提言に対しては、村から今後の対応方針、令和2年度の実施内容が示されました。この部分も外部評価のPDCAサイクルでは重要な取り組みかと思います。つまり、毎年の外部評価報告書に前年度の報告書に対する村当局の対応も記載するか、村のホームページ等に、関係性がわかるように掲載していただければと思います。

また、ヒアリングにかかわる各委員の事前質問に対する担当課の事前回答なども、各委員の個別の評価表とともに行政評価情報として大切に管理していただき、後年度に渡りチェックが可能となるよう希望いたします。PDCAサイクルは、1年ごとの作業ですが、政策はこの総合振興計画が10か年（前後期5年ずつ）であるように、中長期にわたります。歴史は永遠に続くと思いますので、現在の村民とともに将来の世代においても「評価」できるようにしておくことも毎年の外部評価の課題であると思います。

なお、外部評価の進捗状況の欄には、AからDまでのどれかに丸が付けられていますが、すぐその下に太字で例えば、「B+」などと記載されています。評価委員の個別の評価にばらつきがあるので、このような記述となりました。評価の実態が報告書により正確に反映されたと思います。

最後に、西郷村第四次総合振興計画は、来年令和3年度で前期計画の計画期間が終了となりますが、新たに策定する後期計画では、「むらづくり指標」の達成度に応じて、政策を練り直し、その結果によっては計画期間途中であっても指標を見直すことについても検討をしていただきたいと思います。

西郷村行政評価推進委員会

令和2年度実施 令和元年度 基本施策評価シート

行政評価推進委員会の外部評価にあたっては、担当課へのヒアリングのほか、西郷村が実施した施策評価（内部評価）の結果（※基本施策評価シート）を参考に実施したことから、本報告書の参考資料として添付しました。

令和 2 年度 実施

令和元年度 基本施策評価シート

施策コード	基本施策のコード、名称を記載しています。
基本施策	
基本目標	当該基本施策が含まれる基本目標を記載しています。

担当課	当該基本施策に対する事務事業を所管する担当課及び関連課を記載しています。
関連課名	

現状と課題	当該施策における西郷村の現状と、課題について記載しています。西郷村第四次総合振興計画(冊子)に記載している内容と同様です。
-------	---

むらづくり指標の達成度	指標名	単位	初期値(H27)	H29	H30	R元	R2	目標値(R3)
			目標値					
<p>前期計画で掲げたまちづくり指標を記載しています。この指標により、本施策の進捗を把握します。</p> <p>既に、目標を達成している指標や、本施策の進捗を表すのに適していない指標などについては、後期計画策定時に見直しを図ります。</p>	実績							
	達成度							
	目標値							
	実績							
	達成度							
	目標値							
	実績							
	達成度							
	目標値							
	実績							
	達成度							
	目標値							
実績								
達成度								
目標値								
実績								
達成度								
目標値								
実績								
達成度								

個別施策の評価	方向性	個別施策名	方向性
	各基本施策に属する個別施策名を記載しています。	今後の取組について「現状維持」「拡充・強化」「縮小」の3段階で評価しています。	
※方向性: 現状維持/拡充・強化/縮小/-			

全体総括	上記までの内部評価を踏まえて、今後どのような方向性で取り組むのか、施策の目標を効果的・効率的に達成していくために施策展開の見直しが必要かどうか等、担当課による総括を記載しています。	<p>担当課評価</p> <p>A 目標に向け順調に進んでいる</p> <p>B 目標に向けある程度進んでいる</p> <p>C 縮小・統合</p>	総合評価
------	--	--	------

令和 2 年度 実施

令和元年度 基本施策評価シート

施策コード	1-2
基本施策	幼児期の教育・保育の充実
基本目標	1 希望に満ち、子どもたちが健やかに育つむらづくり

主担当課	福祉課
関連課名	学校教育課

現状と課題	<p>○社会情勢、近隣関係、家族構成等の変化及び就労形態、価値観等の多様化に伴い、教育・保育ニーズが増加するとともに、多様化してきており、教育・保育ニーズを把握しながら、提供体制の量的確保と質的充実を計画的に推進していく必要があります。</p> <p>○本村においても、保育ニーズの高まりを受けて、待機児童の解消が喫緊の課題となっており、平成31年度に新たな保育園が開設される予定となっています。</p> <p>○乳幼児期から就学後にいたる発達の連続性を踏まえた子どもの育ちを支援するためには、各時期における教育・保育の質の改善を図るとともに、各関係機関の連携を強化していく必要があります。</p> <p>○障がいを抱える子どもや発達が気になる子どもなど特別な配慮が必要な子どもを含めて、一人一人の状況を把握し、発達に応じた一貫した支援が必要です。そのため、保育園、幼稚園等における支援体制の強化や職員の専門性の向上が求められます。</p>
-------	--

むらづくり指標の達成度	指標名		単位	初期値(H27)	H29	H30	R元	R2	目標値(R3)
	保育提供体制の確保(村内保育園の定員)	目標値	人	518	518	518	518	518	518
実績		433		453	453	583			
達成度		83.6%		87.5%	87.5%	112.5%	0.0%	0.0%	
待機児童数	目標値	人	0	0	0	0	0	0	0
	実績		27	64	59	33			
	達成度		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
3年保育・預かり保育の実施(幼稚園)	目標値	-	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
	実績		未実施	未実施	未実施	未実施			
	達成度		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
病児病後児保育の実施	目標値	-	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施
	実績		未実施	未実施	未実施	実施			
	達成度		0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
	目標値								
	実績								
	達成度								
	目標値								
	実績								
	達成度								
	目標値								
	実績								
	達成度								

個別施策の評価	個別施策名		方向性	個別施策名	方向性
	1-2-1	待機児童対策	現状維持		
1-2-2	多様なニーズに応じた教育・保育の充実	現状維持			
1-2-3	幼保小連携の強化	現状維持			
1-2-4	障がい児保育の充実	現状維持	※方向性:現状維持/拡充・強化/縮小/-		

全体総括	<p>(福祉課)</p> <p>・待機児童解消対策として、新保育園を整備し村内保育園の定員数の拡大を図っている。今後は、保育士不足の解消が課題である。</p> <p>・無償化や共働き世帯の増加および就労形態の多様化により保育園に求められるものが増加傾向にあり、引き続き安心して子育てができる環境を整備して行く必要がある。</p> <p>・子育て支援センターを設置したことにより、障がいを抱える子どもや、特別な配慮を必要とする子どもの状況を把握し、関係機関でより連携を密にすることができ発達に応じた支援を図ることが出来た。</p> <p>(学校教育課)</p> <p>・村立幼稚園の3歳児保育・預かり保育の実施に関しては、総合教育会議等を開催し今年度中に今後の村立幼稚園の在り方等についての結論を出す予定になっております。</p>
------	--

総合評価	B
目標に向けある程度進んでいる	

令和 2 年度 実施

令和元年度 基本施策評価シート

施策コード	2-2
基本施策	家庭・地域の教育力向上
基本目標	2 自らを高め、共によりよく生きるむらづくり

主担当課	学校教育課
関連課名	生涯学習課

現状と課題	<p>○核家族化や近隣関係の希薄化等を背景として、家庭や地域の教育力の低下が指摘されています。未来を担う子どもたちの健やかな成長のためには、家庭や地域における教育力の向上が重要です。</p> <p>○学校への期待や教職員の負担感が増加しており、学校運営を地域全体で支えていく必要があります。</p> <p>○村では、子どもが大切にすべきことを示した「子ども宣言」、子どもの幸せのために親が実践すべきことを示した「子育て宣言」、を制定し、人権教育、心の教育を推進するための「5つの提言」をまとめ、教育に活用しており、今後も、大切にすべき教育の考え方を家庭や地域が共有し、取り組んでいく必要があります。</p> <p>○若者の定住に向け、郷土に対する誇りや愛着の醸成が重要です。地域活動団体や地元企業などとの連携を図り、地域の産業や歴史・文化、自然環境等について学習・体験する機会や、家庭や地域以外の人との交流・関わりを深めることができる機会の充実を図っていく必要があります。</p>
-------	--

むらづくり指標の達成度	指標名		単位	初期値(H27)	H29	H30	R元	R2	目標値(R3)
	ノーマディア目標達成率 ※3年に一度の調査であるためH30値を記載		目標値	%	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
		実績	37.0			35.0	35.0		
		達成度	74.0%		0.0%	70.0%	70.0%	0.0%	0.0%
子ども避難の家登録件数		目標値	件	300.0	300.0	300.0	300.0	300.0	300.0
		実績		260.0	263.0	262.0	261.0		
		達成度		86.7%	87.7%	87.3%	87.0%	0.0%	0.0%
子どもの安全見守り隊員数		目標値	人	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
		実績		87.0	80.0	79.0	78.0		
		達成度		87.0	80.0	79.0	78.0	0.0	0.0
		目標値							
		実績							
		達成度							
		目標値							
		実績							
		達成度							
		目標値							
		実績							
		達成度							

個別施策の評価	個別施策名		方向性	個別施策名	方向性
	2-2-1	学校・家庭・地域の連携促進	現状維持		
	2-2-2	地域ぐるみの見守り活動の支援	現状維持		
	2-2-3	家庭の教育力の向上支援	現状維持		
	2-2-4	多様な体験・交流活動の充実	現状維持	※方向性:現状維持/拡充・強化/縮小/ー	

全体総括	<p>3つの指標について平成30年度実績(またはH27年度実績)と比較しほぼ横ばいである。各施策について、より広く周知し、啓発活動を推進することで達成度の向上を目指す。少年の主張大会、夏休み期間中の街頭指導、薬物乱用防止のための街頭活動、村PTA連絡協議会と連携したメディアコントロールの実施といった啓発活動を続けており、今後も青少年の健全育成のために続けていく必要があると考える。</p>
------	---

総合評価	B
目標に向けある程度進んでいる	

令和 2 年度 実施

令和元年度 基本施策評価シート

施策コード	2-4
基本施策	生涯学習の推進
基本目標	2 自らを高め、共によりよく生きるむらづくり

担当課	生涯学習課
関連課名	

現状と課題	<p>○社会情勢やライフスタイルの変化、価値観の多様化に伴い、自己啓発・自己実現に向けた学習ニーズが高度化、多様化してきています。時代のニーズに応じた生涯学習機会の充実が求められるとともに、そうした機会を通じたコミュニティの醸成に期待が寄せられています。</p> <p>○子どもから高齢者まで各層にわたるニーズに対応した多様なプログラムの実施を図るとともに、地域に潜在しているさまざまな知識や技術を持つ人材を有効活用しながら、さまざまな世代が共に楽しみ、活動することができる生涯学習環境を整備していく必要があります。</p> <p>○村では、公民館事業として「西郷単位制総合大学」を開設し、地域の自主グループ活動と連携した生涯学習の推進に取り組んでいます。卒業生を学校教育や生涯学習の講師として招くなど、地域における学びの循環が形成されており、引き続き生涯学習の中核として推進していく必要があります。</p> <p>○学力の向上につながる読解力を養い、知識や教養を身に付ける読書活動は家庭や学校だけでなく地域全体での取り組みが必要であり、ハード・ソフト両面での読書環境の充実にお層推進していかなくてはなりません。</p> <p>○これら全ての活動や芸術・文化活動の拠点となる文化センターの機能向上や各地域における集会所の改修などのコミュニティ施設の整備を推進していく必要があります。</p>
-------	---

むらづくり指標の達成度	指標名		単位	初期値(H27)	H29	H30	R元	R2	目標値(R3)
	公民館事業に参加した人数		人						
	目標値			5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	実績			4,380	9,331	9,414	9,336		
	達成度			87.6%	186.6%	188.3%	186.7%	0.0%	0.0%
西郷村単位制総合大学在校生数		人							
	目標値			55	55	55	55	55	55
	実績			44	44	43	53		
	達成度			80.0%	80.0%	78.2%	96.4%	0.0%	0.0%
図書室貸し出し冊数		冊							
	目標値			10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
	実績			5,894	8,072	7,025	6,486		
	達成度			58.9	80.7	70.3	64.9	0.0	0.0
集会施設等の利用人数		人							
	目標値			27,000	27,000	27,000	27,000	27,000	27,000
	実績			26,203	23,028	21,838	23,009		
	達成度			97.0%	85.3%	80.9%	85.2%	0.0%	0.0%
	目標値								
	実績								
	達成度								
	目標値								
	実績								
	達成度								
	目標値								
	実績								
	達成度								

個別施策の評価	個別施策名		方向性	個別施策名	方向性
	2-4-1	公民館活動の充実	現状維持		
2-4-2	人材育成・学び循環の推進	現状維持			
2-4-3	読書活動の充実	拡充・強化			
2-4-4	生涯学習拠点・コミュニティ施設の整備	現状維持	※方向性:現状維持/拡充・強化/縮小/ー		

全体総括	<p>西郷村単位制総合大学在校生数については、目標値には達していないものの増加傾向にあり、公民館事業参加者数については、昨年度より若干減少しているが、目標値を大きく上回っており、このまま進めていけばいいのではないかと考えられる。</p> <p>図書貸出冊数については、初期値を上回っているが、年々減少しているため、事業の拡充・強化が必要と考えられる。</p> <p>集会施設等の利用人数は初期値より減少しているが、利用件数は平成27年度(1638件)に比べて増加しているため、現状維持とした。</p>
------	--

総合評価	A
目標に向け順調に進んでいる	

令和 2 年度 実施

令和元年度 基本施策評価シート

施策コード	3-2
基本施策	商工業の振興
基本目標	3 活力ある、交流とふれあいのむらづくり

担当課	産業振興課
関連課名	

現状と課題	<p>○社会経済のグローバル化の進展等により、製造業を中心に産業の空洞化が進んでいる中、本村には、精密機械工業をはじめ、多くの工場が立地しており、地域産業と雇用を支えています。今後も、本村の強みを活かした企業誘致を進めるとともに、製造業以外の企業の立地を促進していくことが課題となっています。</p> <p>○国は、日本再興戦略の中で、新たな有望成長市場として、IoT(モノのインターネット化)やビッグデータ、人工知能の活用、世界最先端の健康立国、環境・エネルギー分野への投資、スポーツの成長産業化等を掲げています。本村にある地域資源の活用と産学官、企業間連携等による戦略的な産業振興を図っていく必要があります。</p> <p>○長引く不況等を背景に、地域経済は疲弊しており、特に中小企業は厳しい経営状況に置かれています。経営の安定化を支援するとともに、新たな事業展開等を支援していくことが必要です。</p>
-------	--

むらづくり指標の達成度	指標名		単位	初期値(H27)	H29	H30	R元	R2	目標値(R3)
	村内企業数	目標値	社		535	535	535	535	535
実績				522	522	522	528		
達成度				97.6%	97.6%	97.6%	98.7%	0.0%	0.0%
製造業従業員数	目標値	人		4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
	実績			3,851	3,851	3,851			
	達成度			96.3%	96.3%	96.3%	96.3%	0.0%	0.0%
創業支援事業計画を活用した村内創業者数	目標値	人		7	7	7	7	7	7
	実績			0	0	0	0		
	達成度			0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
卸売・小売業事業所数	目標値	事業所		115	115	115	115	115	115
	実績			108	108	108	108		
	達成度			93.9%	93.9%	93.9%	93.9%	0.0%	0.0%
	目標値								
	実績								
	達成度								
	目標値								
	実績								
	達成度								
	目標値								
	実績								
	達成度								

個別施策の評価	個別施策名		方向性	個別施策名	方向性
	3-2-1	経営基盤強化支援	現状維持		
	3-2-2	創業支援	現状維持		
	3-2-3	企業誘致の推進	現状維持		
	3-2-4	産学官連携・企業間連携の推進	現状維持	※方向性:現状維持/拡充・強化/縮小/ー	

全体総括	<p>昨今の中小企業・小規模企業は、製造業・非製造業とも労働生産性が低下しており、大企業は、生産性を向上させていることにより地域内企業間の格差が生じている。また、生産年齢人口の減少や村内においては、大企業の工場の増設等による雇用拡大や新卒者等の大企業志向により人手不足が常態化しており、さらには設備の不足感や老朽化が進んでいるのも実情であり、IT投資に対する遅れや経営者の高齢化に伴う事業承継問題など村内の中小企業や小規模企業を取り巻く課題は山積みとなっているのが現状である。このように今後も中小企業・小規模企業の雇用の確保や企業間取引の拡大等を推進していくことが必要である。また、創業支援事業については、ワンストップ相談窓口等での相談を受け、創業までに至った者もいるが、この事業を活用したものはいなかった。今後は、事業のPRIに努め利用促進に努めていく。</p>
------	--

総合評価	B
目標に向けある程度進んでいる	

令和 2 年度 実施

令和元年度 基本施策評価シート

施策コード	4-2
基本施策	上下水道の整備
基本目標	4 快適に暮らし、利便性の高いむらづくり

担当課	上下水道課
関連課名	

現状と課題	<p>○本村は、阿武隈川の源流を有しており、河川の水質汚濁を防止し、きれいな水を下流域の市町村に引き継ぐ責務があります。</p> <p>○上下水道整備においては、施設の老朽化の進行や震災による被害の経験等を踏まえ、社会基盤である施設の長寿命化、耐震化が求められています。また、これまでの拡張の方向性から、持続性と安全・安心の確保という方向性に転換されてきています。</p> <p>○公共下水道、農業集落排水及び合併浄化槽による整備が進み、村域はほぼカバーできつつあります。そのため、今後は啓発活動等により住民の意識向上を図り、未加入世帯の接続を促進するとともに、持続的で安定したサービスの提供を目指し、経営の強化を図っていく必要があります。</p> <p>○世帯数の増加に伴い、新たな水需要が必要です。水源の水量と水質を確保しつつ、安全でおいしい水の供給に取り組んでいく必要があります。</p>
-------	---

むらづくり指標の達成度	指標名		単位	初期値(H27)	H29	H30	R元	R2	目標値(R3)
	水道有収率	目標値	%		85.0	85.0	85.0	80.0	81.0
実績				78.9	78.8	79.5	76.0		
達成度				92.8%	92.7%	93.5%	95.0%	0.0%	0.0%
下水道接続率(合併処理浄化槽含む)	目標値	%		87.0	87.0	87.0	87.0	87.0	87.0
	実績			81.7	82.2	83.9	86.2		
	達成度			93.9%	94.5%	96.4%	99.1%	0.0%	0.0%
	目標値								
	実績								
	達成度								
	目標値								
	実績								
	達成度								
	目標値								
	実績								
	達成度								
	目標値								
	実績								
	達成度								

個別施策の評価	個別施策名		方向性	個別施策名	方向性
	4-2-1	汚水の適正処理	現状維持		
	4-2-2	水の安定供給と水質保全	現状維持		
	4-2-3	上下水道事業の安定経営	現状維持		
	4-2-4	ストックマネジメントの推進	現状維持	※方向性:現状維持/拡充・強化/縮小/ー	

全体総括	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道計画区域内の未普及地区整備、供用開始区域の未接続世帯について戸別訪問等により接続率向上及び水質汚濁防止に取り組んでいく。 ・上下水道施設について、計画的に老朽管の更新、上水道の漏水調査、下水道の不明水対策をおこない有収率向上に努めていく。 ・下水道事業については、将来にわたり事業の安定経営を目指すため、平成32年度からの地方公営企業法適用に向け取り組んでいく。 ・農業集落排水(上野原、真船地区)を公共下水道へ統合し維持管理費の経費削減に努める。
------	---

総合評価	A
目標に向け順調に進んでいる	

令和 2 年度 実施

令和元年度 基本施策評価シート

施策コード	5-2
基本施策	医療の充実
基本目標	5 自分らしく生き、笑顔があふれるむらづくり

主担当課	健康推進課
関連課名	住民生活課

現状と課題	<p>○医療体制の充実とは、村民の生命と健康を守る重要な施策であり、各医療機関における連携強化を促進するとともに、県及び近隣自治体等と連携を図りながら、村民の誰もが質の高い医療を安心して受けられる環境を確保していく必要があります。</p> <p>○地域医療において、日常的な健康状態の把握のみならず、介護・福祉との連携や在宅医療の実施、専門的な医療へのつなぎ等を行う「かかりつけ医」が重要視されています。普段から顔の見える身近な存在であるかかりつけ医の普及・定着を図っていく必要があります。</p> <p>○本村は、入院医療及び専門外来医療を提供する二次医療圏について、白河市を含む県南医療圏に属しており、県及び関係市町村と連携し、地域医療体制の整備を進めていく必要があります。</p> <p>○高齢化の進行等に伴い、医療費が増大しており、持続可能な医療の確保が課題となっています。各医療機関が担う役割を踏まえ、状態に応じた適正な医療受診を促進していく必要があります。</p>
-------	--

むらづくり指標の達成度	指標名		単位	初期値(H27)	H29	H30	R元	R2	目標値(R3)
	かかりつけ医がいる人の割合	目標値	%		75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
実績		69.3			74.1	74.1	74.1		
達成度		92.4%			98.8%	98.8%	98.8%	0.0%	0.0%
国民健康保険一人当たり費用額 (医科・歯科・調剤・訪問看護・食事生活療養) ※H29:実績がでないためH28実績値を計上	目標値	千円		310	310	310	310	310	310
	実績			279	287	289	276		
	達成度			90.0%	92.6%	93.2%	89.0%	0.0%	0.0%
後期高齢者健診受診率	目標値	%		30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0
	実績			17.9	20.0	24.0	24.4		
	達成度			59.7	66.7	80.0	81.3	0.0	0.0

個別施策の評価	個別施策名		方向性	個別施策名		方向性
	5-2-1	地域医療体制の強化	現状維持	5-2-5	後期高齢者医療制度への支援	現状維持
5-2-2	かかりつけ医の普及	現状維持				
5-2-3	適正受診の促進	拡充・強化				
5-2-4	国民健康保険制度への支援	現状維持	※方向性:現状維持/拡充・強化/縮小/ー			

全体総括	医療体制の充実を図ることは、村民の生命と健康を守る重要な施策である為、県や近隣市町村との連携を図る
------	---

総合評価	A
目標に向け順調に進んでいる	

令和 2 年度 実施

令和元年度 基本施策評価シート

施策コード	6-3
基本施策	エネルギー対策の推進
基本目標	6 自然と共生し、環境にやさしいむらづくり

担当課	環境保全課
関連課名	防災課
	産業振興課

現状と課題	<p>東日本大震災以降、エネルギーに対する関心が高まっています。各家庭や事業所等では、できるだけエネルギーを消費しない省エネルギーに取り組むとともに、化石燃料に依存せず、地球環境にもやさしい再生可能エネルギーを積極的に活用しようといった取り組みも多岐にわたるようになってきています。</p> <p>村では、公共施設への太陽光発電設備の設置や公用車のハイブリッド化を行うとともに、一般家庭における太陽光発電の導入を支援するなど、省エネルギー、再生可能エネルギーの導入を進めてきました。今後も、エネルギー関連技術の進展に合わせ、地域全体で省エネルギー、再生可能エネルギーの導入等に向けた取り組みを進めていく必要があります。</p> <p>しかしながら、大規模太陽光開発に伴い、大規模森林伐採による自然破壊や、設置後の管理による除草剤散布・経年劣化によるパネルに含まれる有害物質の流出・処分等が懸念されています。これらの課題に伴い、令和元年度では、西郷村太陽光発電設備設置事業指導要綱を制定し、要綱に基づき運用を始めたところです。なお、令和2年度においては、自然環境と再生可能エネルギー関連事業との調和に関する条例の制定を予定しており、今後も自然環境との調和を図りながらエネルギー対策を推進します。</p>
-------	--

指標名	単位	初期値 (H27)	H29	H30	R元	R2	目標値 (R3)
		再生可能エネルギー(住宅用太陽光発電システム設置)補助件数	件	35	35	35	35
		実績	31	32	29	32	
		達成度	88.6%	91.4%	82.9%	91.4%	0.0%
むらづくり指標の達成度							

個別施策名	方向性	個別施策名	方向性
		6-3-1 省エネルギーの促進	現状維持
6-3-2 再生可能エネルギーの普及促進	現状維持		
※方向性:A 拡大・拡充 B 現状維持 C 縮小・統合 D 次年度以降検討			

全体総括	<p>各家庭や事業所等では、できるだけエネルギーを消費しない省エネルギーに取り組むとともに、化石燃料に依存せず、地球環境にもやさしい再生可能エネルギーを積極的に活用しようといった取り組みにこの補助事業は、大きな役割を果たしてきた。約10年という節目を迎えるに当たり事業の見直しの時期と考える。</p>
------	--

総合評価	A
目標に向け順調に進んでいる	

令和 2 年度 実施

令和元年度 基本施策評価シート

施策コード	7-3
基本施策	原子力災害対策の推進
基本目標	7 安全が守られ、災害に強いむらづくり

主担当課	環境保全課
関連課名	産業振興課
	健康推進課

現状と課題	<p>○東日本大震災に伴う原子力発電所の水素爆発による放射能物質の放出は、村民の暮らしや地域産業、健康への不安、本村に対するイメージ等に大きな影響を与えており、村民の安全・安心な生活を確保し、本村に活気を取り戻すためにも、最も早急に取り組まなければならない課題のひとつです。</p> <p>○原子力災害対策は、本来、原子力政策を推し進めてきた国と原子力事業者である東京電力(株)が対処すべき問題であり、国は、社会的立場において責任を持って除染に取り組むとしています。しかしながら、それには相当の時間がかかると考えられることから、一刻も早く安全・安心な生活を取り戻すべく、村が実施主体となって除染活動に取り組んでいます。</p> <p>○放射能汚染は目に見えない災害であり、その影響に対する不安は、今なお大きなものとなっています。特に、子どもの健康被害に対する不安が大きいことから、村では、ガラスバッチによる外部被ばく測定及びホールボディカウンターによる内部被ばく測定を行っています。また、食品の自主検査に対する支援を行うとともに、村役場において持ち込みによる検査を実施しています。さらに、放射能汚染やその影響に対する正しい知識の普及に向けた取り組み等を実施しています。</p> <p>○今後も、村土の放射線量低減に向けて全力で取り組むとともに、正しい情報を把握、発信し、安心して暮らし、訪れることができるむらづくりを推進していく必要があります。</p>
-------	--

指標名	単位	初期値 (H27)	H29	H30	R元	R2	目標値 (R3)	
		汚染土壌の中間貯蔵施設への搬出量	袋	1,000	69,750	69,750	69,750	69,750
		実績	1,002	14,946	59,091	142,630		
		達成度	100.2%	21.4%	84.7%	204.5%	0.0%	0.0%
むらづくり指標の達成度								

個別施策名	方向性	個別施策名		方向性
		7-3-1 除染・線量低減化の推進	—	
7-3-2 復旧・復興対策	—			
7-3-3 健康と安全・安心の確保	—			
※方向性: 現状維持/拡充・強化/縮小/—				

全体総括	
------	--

総合評価

